

【別添2】（様式例2）

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号 58

I 自己評価

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP） ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、課題解決のため主体的に協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、主張や意見を交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のための課題解決を目指す生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP） ・課題の発見、解決能力を伸長するための「主体的・対話的で深い学び」 ・「探究的な学び」の推進 ・ICTを積極活用した教科指導・探究的な学びでの、コミュニケーション能力と情報発信力の育成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP） ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・高い志を持ち、その実現のために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や部活動、地域活動などに自主的、主体的に参加し、より良い学校や社会を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	生徒指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果から（令和4年度と5年度の肯定的評価の変化） 「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」 R4：81%➡R5：64%（「分からない」が31%） 「本校では、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。」 R4：76%➡R5：62%（「分からない」が32%） 「本校では、高校生としてのマナーや社会的規範を身につけさせるための指導を行っている」 R4：91%➡R5：79% 「学校は、個々の生徒の相談に丁寧に応じている。」 R4：86%➡R5：75%		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	（1）基本的な生活習慣の確立を根幹に、集団の一員としての自覚を持たせ、社会性と責任感の育成に努めます。 （2）いじめや不登校等の未然防止と教育相談体制の充実を図ります。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・両キャンパスごとに管理職、企画委員会を中心に、各教科、学科と学年会と連携をした組織。 ・管理職、生徒指導部を中心とし両キャンパスを統一的に進める組織。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
（1）遅刻生徒数の減少に向けた取り組みを生徒会と共に行います。 （2）自らすすんであいさつができ、爽やかな人間関係が構築できるよう、生徒会、MSリーダーズと連携して啓発活動を進めます。又、ボランティア活動については、MSリーダーズを中心に、生徒主体で積極的に運営、参加することができるように働きかけます。 （3）身だしなみや学校のルールについて生徒自らが主体的に考え、自己判断できるよう対話を重視した指導を行います。生徒や保護者の思いに寄り添い、学校としてチームで支援に当たります。	（1）遅刻者統計数の結果  （2）あいさつやボランティアに対して意識し、行動できたかの評価（保護者、生徒の自己評価の結果）  （3）自らの生活について主体的に考えることができているかの評価（保護者、生徒の自己評価の結果）  （4）教員の傾聴姿勢に対する評価（保護者、生徒の自己評価の結果）		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
①コロナ時の出席に対する扱いの影響により、比較はできないが遅刻する生徒は減少している。	①時間などルールを守る意識の向上	A B C D	

②各クラスの MS リーダーズ、生徒会が朝の挨拶運動を定期的に行っている ③身だしなみやモラル等の指導に対して、個別の対応を基本とし生徒との対話を重視した。	②ボランティア活動への参加意識の向上 ③生徒の自己指導力の向上	A (B) C D A (B) C D
12 成果 ・ 課題	○不登校等不安を抱える生徒に対して、教育相談を中心に丁寧な対応を行うことができた。 ○MSリーダーズ、生徒会の朝のあいさつ運動を、年間を通じて定期的に行うことができた。 ▲特に1年生の人間関係のトラブルが多い。コロナにより行事を行えていない世代であることを踏まえた対策が必要である。	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案 ・生徒指導、教育相談が中心となり、担任、部顧問との連携を密に取りながら生徒の些細な変化を見逃さない体制、共通理解を持った指導体制を築くこと。 ・MSリーダーズ、生徒会活動など、校内、校外において活動量を増やしていくこと。 ・生徒会と年間を通じて連携し、生徒心得の周知や問題点の改善などを進めていくとともに、教員間での共通理解の徹底を図る。 ・入学して最初の4月に、LHRの時間を増やして信頼関係構築に充てるなどこれまでにない工夫が必要である。また、行事を制限のない形に戻しつつ、他者とのコミュニケーションを増やしていく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会と連携して生徒心得等の周知を全ての生徒が納得できるような形で行い、先生方にも共通理解をもって指導にあたってほしい。</li> <li>・1年生の人間関係のトラブルをできるだけ減らすために、学校行事やLHRなどにおいて他者と対面でコミュニケーションをとる機会を増やし、また様々な先生方と気軽に相談できるような体制をつくってほしい。</li> </ul>
---